

## 中世の暖房器具「火鉢のはなし」

中世武士・河越氏の館である河越館跡(上戸)から出土した、菊花の模様で飾られた土器片。これ



河越館跡出土の奈良火鉢破片

は、中世に暖房器具として使われた奈良火鉢の破片です。

いろいろの火で暖を取っていた中世、炭火を使うため煙が少なく、持ち運ぶことができる火鉢は、貴族・武士の館や寺院といった、格式があり部屋数も多い建物の暖房器具として重宝されました。中でも大和国(奈良県)で製作された奈良火鉢

は、『三十二番職人歌合』(16世紀成立の絵巻物)の中で「八重さくら 名におふ京のものなれば はなかにやくなら火鉢かな」と歌われるように、花卉の形に焼かれていました(下図参照)。

出土した奈良火鉢破片は、表面に光沢が出るほど丁寧に磨かれ、漆が塗られる精巧な造りであることから、単なる暖房器具ではなく、遠い都の文化薫る調度品の一つとして、河越氏が特に優れた品を取り寄せたものかもしれませぬ。

江戸時代以降、火鉢は安価な暖房器具として普及しますが、中世以前の火鉢は、格式のある場所です。特別な暖房器具だったのです。



花の形に焼かれた奈良火鉢(復元図)



## 農産物直売所 福菜

品質が良く、市場でも評価が高い福原地区の野菜が購入できる

農産物直売所「福菜」は、今年で8年目。連日多くの来客があり、土日には約500人もの方が訪れます。



「ここの野菜はおいしい、と言われるような野菜作りを追求したいです」と語るのは福菜出荷グループ副代表の森田義和さん(下赤坂)。珍しい品種に積極的に取り組むなど、さまざまな方法で自分

たちの育てたこだわりの野菜を多くの方に食べてもらう努力を続けています。

福菜では、時期に合わせたイベントを2か月に1回程度開催しています。12

月29日(火)・30日(水)には年末セールが予定されていますので、この機会にぜひ福菜へ足を運んでみてはいかがでしょうか。詳しくは、農産物直売所福菜 ☎238-8800にお問い合わせください。



この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

ダイコン、カブ、ホウレンソウ、サトイモ、チンゲンサイ、ブロッコリー、コマツナ、ミズナ、ネギ、ゴボウ、ハクサイ

編集後記

## ぶらぶら

### 表

紙の写真は11月21日、22日に開催された小江戸川越ライトアップの様子です。今年のコンセプトは「光が動く、光と遊ぶ」。

一番街を動く光は幻想的で、その光に吸い寄せられるかのように多くの人でにぎわっていました。

鍛冶町広場、埼玉りそな銀行川越支店北側、川越まつり会館北側のライトアップは12月25日(金)まで展示予定です。



埼玉りそな銀行川越支店北側



鍛冶町広場(仲町交差点北側)